

国連環境計画・国際環境技術センター（UNEP-IETC）

設立 30 周年記念イベント

「ごみゼロへの挑戦 ～次の 30 年に向けたサステナビリティ
アクション」

武井副大臣によるビデオメッセージ

アンダーセン UNEP 事務局長、松井大阪市長、御臨席の皆様、

- 日本国外務副大臣の武井俊輔です。本日は、国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）の大阪市設立 30 周年に心からお祝い申し上げます。
- 日々便利になる我々の生活で避けられない廃棄物。リサイクルされるものもあれば、放置されて動物が誤って食べてしまうもの、海洋中に放出されてしまうものもあります。世界的に年々増加している廃棄物が知らず知らずのうちに生態系や人間の健康への脅威となる。そんな深刻な環境危機が今、世界各地で発生しています。
- 1992 年に大阪に誕生した IETC は、こうした廃棄物の管理に取り組む唯一の国際機関として、大阪市が環境汚染を克服した経験も活かしながら、途上国での廃棄物の実態調査に取り組み、各国の実情に合った政策の策定を支援し、必要な技術移転を推進してきました。のべ約 150 か国でのこうした支援の経験も踏まえ、IETC は世界全体の廃棄物管理の現状を取りまとめた「廃棄物管理概況」を作成し、各国での更なる廃棄物管理の改善にも貢献する等、この分野で

中核的なプレイヤーとして、大いに貢献してきました。

- 30 年もの間、ここ大阪から、IETC が廃棄物管理という人類共通の地球規模課題について、各国の状況に応じ、かつ、時宜にかなった解決策を世界に発信してきたのです。

- 皆様、

この廃棄物管理の中で、世界で特に懸案として注目を集めているのがプラスチック汚染です。我々がこのまま何も対策を講じなければ、2050 年には海の中のプラスチックの量が魚介類の量を超えるといった衝撃的な試算も出ています。

- プラスチックは自然界では分解されにくく、一度海洋に流出すると数十年にわたって残ると言われる一方、その回収には大変な困難が伴うことから、世界各地で海の生態系に悪影響を及ぼし、その影響が衛生面や経済面でも問題となっています。他国にも流れ着くこのプラスチック汚染の問題の背景には、少なからぬ途上国での廃棄物管理が不十分なことがあると指摘されています。

- 我が国はこのプラスチック汚染の問題に積極的に取り組んでいます。2019 年にここ大阪で開催された G20 サミットで我が国は、2050 年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減する「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を提唱しました。また、プラスチックごみの排出国の関与を重視し、我が国独自の途上国支援として「マリーン・イニシアティブ」を創設し、IETC による各国での実地調査・提言も踏まえて、各国・地域のニーズを踏まえ

た能力構築やインフラ整備等を支援し、研修等を通じて廃棄物管理分野で 17,000 人以上の人材育成にも取り組んでいます。

- プラスチック汚染を憂慮する世界の声は、今年 3 月の国連環境総会で、プラスチック汚染を終焉させるとの世界の決意と共に、条約交渉の開始という具体的な行動につながりました。IETC が廃棄物管理分野で培ってきた知見や技術が交渉にも生かされるよう、IETC の貢献を我が国もホスト国として強く期待しています。
- このプラスチック汚染問題については、我が国は環境技術も活用しながらリーダーシップを発揮して貢献してまいります。また、本日御臨席のアンダーセン事務局長を始めとする UNEP の皆様、IETC の皆様と緊密に連携して、我が国はプラスチック条約交渉については実効的かつ進歩的な行動の実現に向けて、今後も貢献を惜しまない考えです。
- 皆様、
IETC が取り組む廃棄物管理は、「地球規模での様々な課題に対して新たな価値観を生み出し、持続可能な未来を構築する」という 2025 年の大阪・関西万博の理念の一つにも繋がる重要な課題でもあります。本日のテーマである「ごみゼロへの挑戦」にむけ、IETC が培ってきた知見や解決策が、2025 年の万博に集う世界の様々な人々に対して広く発信されることを期待しております。

- 最後に、IETCが今後とも世界の廃棄物管理の解決に向けて、更に主導的な役割を発揮されることを心から期待して、私からの挨拶といたします。御清聴ありがとうございました。

(5 分 10 秒)

(了)